

# 怒り決意をたぎらせ 82 国鉄 84 破防法集会 全力結集



## 動労千葉

85. 7. 25

No. 1998

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)  
(鉄電)二九三五六・(公衆)四七二二(七)七二〇七

### 監理委「首切り」答申「粉碎」 実力反撃の第一歩

国鉄再建監理委員会は、七月二六日にも「分割・民営化」を基本とする「答申」を政府に提出し、これを受けた中曽根は関連法案の国会提出をもって一気に国鉄労働運動解体に突き進まんとしている。われわれは、首切り攻撃と全力をあげて対決し、闘いぬくために、8・2と8・4行動に総力あげて決起しようではないか。

監理委が二六日にも

首切り「答申」を発表

八二年七月の臨調基本答申の「国鉄の分割は五年以内に速やかに実施する」をうけ、監理委は七月二六日にも「分割・民営化」の「答申」を発表しようとしている。

「答申」の骨子は

- ① 本州を三地域に分け、北海道、四国、九州を加えて全国を六分割する。
- ② 当初は旧国鉄百%出資の特殊会社とし、順次株式を公開して民営化する。
- ③ 処理しなくてはならない長期債務三六兆円は、新会社が十三兆円を負担、土地売却で六兆円を充当し、残り十七兆円を国(国民)の負担とする。
- ④ 新幹線はリース方式にし、リース料により本州三社の収益調整を図る。
- ⑤ 新会社に移行する前に二万人の希望退職を募り、新会社が二割増を抱えてスタートするが、残る余剰人員四万六千人は旧国鉄が職業訓練を行い、三年間で再就職を進める。
- ⑥ 赤字の避けられない北海道など三島には、計一兆円の基金を設け、その運用益で赤字を埋める。

というものである。

闘いを妨害する 動労「本部」革マル

これは、自民党、財界が国鉄「分割・民営化」に群がり、利権を食いあさったうえで、「赤字」のツケを国民大衆におしつけ、もって十万人の国鉄労働者の首を切り国鉄労働運動を解体せんとする悪辣きわまりない攻撃である。

われわれは、三人に一人の首切りを宣言する「答申」に煮えたぎる怒りを叩きつけると同時に、自らの生活を守りぬくために、組織の総力をあげて闘いぬく決意を明らかにするものである。

国鉄労働運動が非常事態に直面する中で開催された総評第七三回定期大会は、「分割・民営化」阻止の斗争を「総評最大の闘い」と位置付け、三

池斗争以来の「国鉄再建斗争本部」を設置し、「壮大な国民運動の展開」を決議した。

しかし、大会の論議は全労協が打ち出す官公労と民間労組の「全的統一」なる右への流れの中で、とりわけ全電通の「民営化反対は親方日の丸」なる発言に示されるように、総評が全体で闘いを展開する状況にはなっていない。

その最大の原因は動労「本部」革マルにあるのだ。

反中曽根の広範な闘いをつくり出そう

反動・中曽根内閣が「戦後政治の総決算」をかけて、国鉄労働運動解体攻撃にうってでてきている時に、当の動労「本部」革マルは、総評大会で「戦術の誤った行使によって国鉄を孤立化させるべきではない。総評の再建政策に対する国民的多数派の形成も目的としなければならない」と発言し、国労の「8・5ストライキ」を批判し、自らは闘わないことを宣言した。

革マル・松崎は「国民的多数派の形成がないから闘うべきではない」というのである。これは「これからはストライキをやらない」ということにはかならない。

動労「本部」革マルは、松崎を筆頭に革マルだけ生きのびるために「分割・民営化」に賛成し、国労や動労千葉の首を切るために全力でたちまわることが明らかだ。

われわれは、一人の首切りも許さず闘いぬくために、直ちに総行動を展開し、反中曽根の広範な闘いをつくりだす最先頭にたつものである。

そのためにも、8・2「国鉄再建」斗争千葉県集会から、8・4「言論・表現の自由を守り破防法廃止をめざす国民大集会」に全力で決起しようではないか。

82「国鉄再建」千葉県集会

8月2日(金)18時、千葉市・中央公園

84「破防法粉碎」国民大集会

8月4日(日)11時、東京・日比谷公会堂